

ぼくの震災日記

3月11日 金曜日

学校の帰りに大地震がおきました。その時ぼくは遊歩道を歩いていて、立っていることができなくて友だちとかたまってすわりました。ぐらぐら地面がゆれてこわかったです。近くの家の人

「早く帰りな。あぶないよ。」

と言ってくれたので、ほそうブロックがぼこぼこになっていた所を走って帰りました。家に帰ったら物がごちゃごちゃになっていたり、水そうの水があふれていました。

大津波警報が出ていたのでひなん所に行こうと用意をして外に出たら、ゴオーッと音がして、電柱や材木がすぐそばまで、黒い波といっしょにせまってきていました。

するとおじいさんが、

「家に入れ。上にあがれ。いそげ。」

とさけんだので、おばあさんとぼくと3人で階段をかけあがりしました。あっという間に、まどガラスをやぶって水が家の中に入ってきました。その水においかけられるように、ぼくたちは2階、3階へいそいで走りました。もうだめかと思ったら3階のホールにすれすれの所で水が止まりました。

「ああ、たすかったあ。」

3階のベランダから海の方を見ると、2階だての家や大きな材木や冷ぞ

うこなど、いろいろな物が流されて来ました。流されてきた家がぼくの家
にぶつかって2階のかべに大きな穴があきました。その後、大きな津波
が2回来ましたが、何もぶつからず流れて行きました。北がわのやぶれ
たかべから外を見ると、門脇町がもえはじめていました。

(作文宮城 60号 特別編「あの日の子どもたち」より)

